

昭和二十二年六月十二日 (第三種郵便物認可)
令和五年八月十三日発行 (毎月一回十三日発行)

定価 五〇〇円

第983号

第七十九卷

9

月号

高知
龍跳書道会

竹
村
子
雀
書

順時不作榮枯想適
意之是暇負心

子雀書

順時不作榮枯想適意元無勝負心

蜀素帖

米芾

神武天臨光下澈鴻臚初唱第一
聲白面王郎年六神武樂育
天下造不使敲枰使傳道衣
錦東南第一州棘壁湖山兩清
味照襄陽野老漁竿客不
愛終年愛泉石相逢不約

神武天臨光下澈。鴻臚初唱第一聲。白面王郎年十八。神武樂育天下造。不使敲枰使傳道。衣錦東南第一州。棘壁湖山兩清照。襄陽野老漁竿客。不愛粉華愛泉石。相逢不約々。

神武天臨すれば光は下澈す。鴻臚 初めて唱う。第一声、白面の王郎 年十八。神武 育つを樂しみ 天下造る、敲枰せしめず伝道せしむ。

衣錦 東南 第一州、棘壁 湖山 兩に清照。襄陽の野老 漁竿の客、粉華を愛せず 泉石を愛す。相い逢うて約せず 約すれば〔無逆〕、

蜀素帖

米芾

蜀で織られた絹に書かれた自作の詩卷である。末尾に「元祐戊辰九月廿三日溪堂米黻記」とあり、元祐三年（一〇八八）に、当時、湖州の知事であった林希の招きを受けてその任地に遊んだときに書かれたもので、米芾三十八歳の書である。荒い絹地にしかも烏絲欄が施されているので、書にいくぶんの気負いと慎重さがうかがえるが、線が澄みきっている。

河村容舟書

竹梢露滴驚殘夢
荷蓋風翻送早涼

竹梢露滴驚殘夢荷蓋風翻送早涼

中平美峰書

林邊鳥語月微下
竹裏花飛春又深

林邊鳥語月微下竹裏花飛春又深

梅
川
桂
龍
書

日長如
小年

日長くして
小年しょうねんの如しごと

8月20日締切

梅
川
桂
龍
書

可 餘
醉 花
猶

余^よ花^か
猶^なお
醉^{ずい}うべく

福
原
曉
雲
書

菊
酒
不
祥
を
除
う

きくしゅ
ふしょう
を
はら
う

福原曉雲臨

蜀素帖 米芾

神武天臨光下

神武天
臨光下

江西澄翠書

山 巖 之 境 龍 藏 雨
石 鼎 茶 香 鵲 趣 燭

澄翠書

市原處艸書

碧 水 忽 開 新 鏡 面
山 都 足 好 簾 幃

市原處

田村和子臨

有張是輔世載其德
爰既且於君蓋

和子臨

門田惠子臨

忽惠出於深心
為等以三百來也

惠子臨

此方人多有言老若
以方分布今古

大原桂園

山津通氣雲行雨施既
成萬物易之藝也

河村容舟

湛々具區無底記可
怜一點終不易扭

岩河里華

可憐烏白鳥隱言知大喘
全叔三吏帝教子胃胃七

浜崎洋堂

百之恒期乘和載誕
文明翊世萬信

弘田賀峰

空有之論或習俗而是非
大小之乘卡以時

深瀬緑堂

白髮三千丈綠絲似眉長不
知以鏡裏紅雲得秋霜

中平美峰

不羞不自立舒光射
丸之相見吐子效鶴

杉本美邦

草書粗傳數法則及
游偏因卯月通

佐竹江月

及其所之既倦情隨
事遷感慨係之矣

中城康華

条幅当選作品 廣末幽念 選評

★天位

大原桂園君Ⅱおだやかな線で好感がもてる。

河村容舟君Ⅱ丁寧に書かれている。

岩河里華君Ⅱのびのびと書いた態度に惹かれた。

浜崎洋堂君Ⅱ技術の確かさを感じる作。

弘田賀峰君Ⅱ堂々と練れた線で意気盛ん。

★地位

深瀬緑堂君Ⅱ線に伸びがありなめらかな感じ です。

中平美峰君Ⅱ手慣れた字形で紙面明るい。

杉本美邦君Ⅱ線が太く豊かな作風でまとめている。

★人位

佐竹江月君Ⅱ全体が良く流れて見ることが出来る。

中城康華君Ⅱ確かな書きぶりで落ち着いた作。

作品は毎月20日必着
(必ず守って下さい)

▷ 次回審査会 ◁

8月の審査は27日(日曜)午前9時30分に開始
します。審査会場は**高知城ホール**です。

※審査終了後、県展作品勉強会を行います。(参加費500円)

暮思

雲郷

中学一年課題
廣末幽念書

技科学 術学

9月20日締切

空
清
去
里

9月20日縮切

小学五年課題

隅田亘心書

高秋
し空

9月20日締切

山秋 里の

9月20日締切

小学三年課題

大原桂園書

生命

9月20日締切

二め

9月20日縮切

小学一年・ようち・ほいく課題

市原處艸書

あき

9月20日締切

学校名		六年	級段	氏名	
水	す	た	ゆ	の	
の	ぐ	。	ら	白	波
中	な	あ	の	い	か
に	か	わ	び	岩	ら
並	げ	や	た	の	来
んで	の	ご	り	上	る
立	棒	み	縮	で	光
ち	が	か	ん		の
ま		ら	だ	美	あ
し	な	は	り	し	み
た	な	ま	し	く	が
。	め	っ	し	ゆ	
	に		ま	ら	底

学 校 名							
四 年							
級 段							
氏 名							
	よ	っ	黄	木	な		
	う	こ	色	の	に	秋	
	だ	こ	に	葉	青	に	
	っ	の	色	も	々	な	
	た	な	づ	い	と	り	
	の	み	い	つ	し	ま	
	だ	木	て	の	た	し	
	な	は	い	ま	な	た	
	い		ま	に	な	あ	
		い	す	か	み	ん	
		ち					

小学三年課題

野中恵花 書

学校名	し	り	チ	近	い	
	ゃ	だ	リ	づ	く	休
三年	べ	し	ン	い	小	み
級段	り	た。		て	屋	時
氏名	始		つ	い	に	間
	め	う	づ	く	行	に
	た	さ	け	と	っ	
	の	さ	さ		て	校
	だ。	ぎ	ま	チ	み	庭
		た	に	リ	た。	の
		ち	鳴	ン		し
		が				

がっこう					
	も	ぜ	ま	ど	
	見	ひ	つ	の	お
	て		り	土	ま
二 ねん	く	大	に	曜	つ
だ き ゆう	だ	き	行	日	り
なまえ	さ	な	っ	で	は
	い	や	た	す	
		ぐ	ら		こ
		ら		お	ん

小学二年課題 藤田桂苑 書

がっこう	あ	あ	い	
	る	し	こ	ち
一 ねん	け	で		き
だ きゅう なまえ			み	ゆ
		た	ん	う
		た	な	の
		い	の	
		て		た

がっこう				
ほねん	お	こ	な	き
	よ	よ	か	ん
だきゅうなまえ	い	し	よ	ぎ
	で	で	し	よ
	る。			さ
				ん

第六十六回 龍跳展を終えて

梅川 桂龍

会員の皆様のご協力のもと、龍跳展を無事終了することができました。搬入・搬出をはじめ毎日の受付当番等、皆さんの一致協力によりスムーズに運行されました、喜ばしいことです。

作品数は七十二点（亡くなられた先生の作品七点含む）で年々減少傾向にあり、新しい方の参加を是非共お願いしたいです。最終日は高知城ホールで久しぶりに打ち上げが行われました。受賞者の表彰もあり賑やかに歓談でき、次回展に向けての意気込みも感じました。

これからも龍跳書の伝統ともいえる、古典を基調とした落ち着いた書風を継承しつつ、更に内容の充実した展覧会にできればと思っています。会員の皆様、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

第六十六回 龍跳展入賞作品について

（審査：福原・廣末・武内・梅川）（コメント：福原・梅川）

龍跳賞 市原處艸 若さみなぎる躍動感のある堂々とした作品。幽玄齋賞 河村容舟 筆力を生かした潤滑ある作、中央三文字の工夫が惜しかった。

湖筆堂賞 西内仁子 抑揚ある運筆リズムで品格あり。

優秀賞（順不同）

大崎花梢 自在な運筆で大胆さもあり、見ごたえがある。すつきりした作、下半分がやや寂しい。

佐竹江月 新鮮でまじめな作品。

天野喜泉 力強い線、流れもよい一行目下部やや混雑では。柔らかな筆を駆使し呼吸長く明るい作、渴筆が利いて品格あり。

中城康華 浜崎洋堂 ゆったりとした筆使いで、落ち着いた時の流れを感じる。

中平幸仙 大胆な運筆で屈託無い、深い線も欲しい。

利谷喜子 紙面明るく華がある。

横山桂華 なかなか工夫を凝らしてはいるが、線質の変化も欲しい。

門田恵子 勢いあまる若さある作品、さわやか！

新人賞 鎌倉春葉

受賞者の皆様、誠におめでとうございます

第六十六回龍跳展にご芳志をありがとうございました。

幽玄齋 様 久保田 號様 山下枝雪様

湖筆堂 様 たに志 様 天野喜泉様

太古 なりと	山静似 手巻 津印 大井 昌清	太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻
太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻
太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻
太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻	太古 手巻	山静似 手巻

(一・二段目) 梅川桂龍 選評
里華君 重厚感・安定感あり、意が
處艸君 剛健な筆致で佳、古字はや
洋女君 小粒ではあるが、線に潤い
花梢君 大胆な字がよく調和してい
る。
仁子君 温和な作、今一步筆力を。
恵子君 前者に同じ。師風を感じま
す。
(二・三段目) 前田秀華 選評
玉水君 落ち着いた筆跡で、ゆとり
ある作。
圭子君 大らかで気持ちよく運筆し
ている。
千晶君 淡々と書して明るい。
司郎君 線質に味わいあり強い。
伸水君 健康で伸びやか、心の広さ
が書に現れている。
(三・四段目) 西山極山 選評
啓子君 堂々として力強い。
知勢子君 大きく強く書きまとまっ
ている。落款に「書」と
書いて下さい。
仁実君 おちつきのある作品。
心春君 最後までていねいに書けて
いる。
由美君 温和な線であたたかさを感
じる。
紀美子君 動き大きく作品が強く感
じる。落款に「書」と書
いて下さい。
(四段目) 大八木洋女 選評
朋子君 力強く書かれています。
由紀君 よくまとめ、力強いです。
和美君 優しさを感じられる作品で
す。

絳烟
旖旎

迹業来
器業何

眾情
以喜

眾情
以喜

山穀

迹業来

志如我

遺訓

古由

器業何

老成

宣導

良悟心

迹業来

眾情

迹業来

神舒

器業何

以喜

器業何

迹業来

一跡隨

迹業来

迹業来

器業何

泥塗

業何

器業何

良悟心

良悟心

玉書過

絶堅為

神舒

神舒

箕山齋

池跡水

(二・二段目) 福原曉雲 選評
紅子君 文字の特徴を四文字にまと

澄翠君 布置章法、大變明るく品格

賀峰君 運筆の緩急潤渴を加味し、

竹山君 運筆リズムは良いが、文字

美泉君 潤渴を書き、線が柔い。今

智子君 後まじめな作だが、今後柔い

眉州君 (二・三段目) 岡崎緑水 選評

玉泉君 がつたりと安定感のある臨

司郎君 手慣れた臨。堅実な書きぶ

絢子君 強く伸びた線が良いがもう

淳君 (三・四段目) 武内美仁 選評

英子君 線はよく伸びて、バランス

美佑貴君 強い線で力を感じる。良

久美子君 字々々々明くる力みなく良

利恵君 毛先がきき、軽妙な筆致で

幸三君 濃厚な線で見応えあり。

由美君 丸みのある線質で伸びやか

(四段目) 岡林邦心 選評

志津君 字々のめりはりが効果的で

川上の急流 介良中二年 小松 裕夫	川上の急流 期名二年 小松 裕夫	花鳥風月 期名中一年 小松 裕夫	花鳥風月 期名中一年 小松 裕夫	花鳥風月 期名中一年 小松 裕夫	花鳥風月 期名中一年 小松 裕夫	花鳥風月 期名中一年 小松 裕夫	花鳥風月 期名中一年 小松 裕夫
谷の水川 前六級 島崎 城三	谷の水川 前六級 島崎 城三	谷の水川 前六級 島崎 城三	谷の水川 前六級 島崎 城三	谷の水川 前六級 島崎 城三	谷の水川 前六級 島崎 城三	谷の水川 前六級 島崎 城三	谷の水川 前六級 島崎 城三
谷の水川 六年 小松 裕夫	谷の水川 六年 小松 裕夫	谷の水川 六年 小松 裕夫	谷の水川 六年 小松 裕夫	谷の水川 六年 小松 裕夫	谷の水川 六年 小松 裕夫	谷の水川 六年 小松 裕夫	谷の水川 六年 小松 裕夫
大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三
大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三	大夏空の 五年 島崎 城三

(一段目) 中学部

佐々木港花 選評

論実君 形も流れも良いです。

風 君 気持ち良く書いて形も整い、いいですね。

真音君 頑張ってください。

茉奈君 気持ち大ですごく良いです。

明日香君 頑張ってくださいいきましょう。

(一・二・三段目) 小学六年 中平美峰 選評

千春君 堂々とした作品です。

誠真君 形良く整えました。

風葵君 のびのびと書きました。

雛子君 落ちついてかけています。「の」もう少し大きく。

美陽君 よく整っています。

彩心君 元氣よく書きました。

紗菜君 力強い作品です。のびのびと書きました。

わと君 いていねいに書いています。

桃萌君 のびのびと書きました。

(三・四段目) 小学五年 深瀬緑堂 選評

陽菜君 堂々として力強さがある。

輝翔君 いていねいに書いています。

風佳君 落ちついていてのびやか。

一乃君 よくまとめています。

かな子君 一字一字力強く素晴らしい。

仁貴君 素直で明るい。名前の位置に注意してね。

結衣君 線良く明るい。

愛加君 いていねいに書いていますが、もう少し力強く。

聖愛君 ゆつたりと体がよく動いています。

(四段目) 小学四年 大原桂園 選評

リサ君 しっかりと書いています。

川天の 同登小四年 中田こころ	川天の 四年 稲原真実	川天の 小四年 川上静う	川天の 二年小四年 田辺春月	川天の 四年宮崎英夫	川天の 二年小四年 菅田浩成
川風の 三年 西内明利	川風の 小三 宮城新翔	川風の 五年三年 宮崎はしそら	川風の 三ねん 田村けいこ	川風の 長同小三年 森田実夫	川風の 五年 後藤和
せみの 小二 太田しんお	せみの 上分をうしろにせみ	せみの 浦内二年 石木芳礼	せみの すこせ 二年 田村ていぞ	せみの 四年二年 西村大希希	せみの 二年 小森 池
うりの おやうじ ますのうのすけ	うりの マサムネトさんかてに	うりの あさつ あんなは いぶき	うりの おふろー ちりたんを	うりの おさんー ちん 男もはちまき	せみの うしろに ちりりん

(一・二段目) 小学四年

悠成君 落つきがあります。

改太君 元気に書いています。

蒼月君 明るくまとまっています。

詩乃君 ゆつたりしています。

蒼葉君 強さがあります。

こころ君 いていねいに書いています。

樹 君 伸び伸びしています。

(二・三段目) 小学三年

実咲君 いていねいによくまとめています。

けんご君 のびのびしています。

そら君 のびやかでせんが強い。

舜翔君 力よく書いています。

明利君 上手にまとめています。

湊 君 かたちよく書いています。

(三・四段目) 小学二年

太希君 力強くまとまっています。

さゆき君 強い線で「せ」がとても良い。

芳尚君 いていねいによく書いています。

みらい君 元気で一生けんめいです。

とき君 のびのびと書いています。

りいな君 落ちついてよい字です。

(四段目) 小学一年・ほいく

はるま君 げんきにかけています。

れんたろう君 ちからづよくかけています。

いぶき君 のびやかによくかけています。

にこ君 まじめに書いています。もう少し大きくかいてみましよう。

奥堂皓月 選評

河村容舟 選評

佐竹江月 選評

久礼 中平 千友
長岡 森田 千春

私たちが感じている時間は
いつでも、どこでも、だれに
と、ても、同じものとはいえ
ません。「心の時間」には、
さまざまないきょうを受け
て進み方が変わったりします
久礼 中平 千友

私たちが感じている時間は
いつでも、どこでも、だれに
と、ても、同じものとはいえ
ません。「心の時間」には、
さまざまないきょうを受け
て進み方が変わったりします
長岡 小六 九 森田 千春

私たちが感じている時間は
いつでも、どこでも、だれに
と、ても、同じものとはいえ
ません。「心の時間」には、
さまざまないきょうを受け
て進み方が変わったりします
浦内 六 九 森田 千春

私たちが感じている時間は
いつでも、どこでも、だれに
と、ても、同じものとはいえ
ません。「心の時間」には、
さまざまないきょうを受け
て進み方が変わったりします
上分 六 八 西森 美陽

浦ノ内 美島乙世花
上分 西森 美陽

一ツ橋 飯田 桃萌
浦ノ内 宮地 輝翔

私たちが感じている時間は
いつでも、どこでも、だれに
と、ても、同じものとはいえ
ません。「心の時間」には、
さまざまないきょうを受け
て進み方が変わったりします
一橋 六 二 飯田 桃萌

残雪というの、は、一羽の
に付けられた名前です。左
右のつばさに、一か所ずつ
真、白なまじり毛を持っ
たので、かりゅうどたちから
そうよばれていました。
浦内 五 八 宮地 輝翔

残雪というの、は、一羽の
に付けられた名前です。左
右のつばさに、一か所ずつ
真、白なまじり毛を持っ
たので、かりゅうどたちから
そうよばれていました。
一橋 五 七 氏原 一乃

残雪というの、は、一羽の
に付けられた名前です。左
右のつばさに、一か所ずつ
真、白なまじり毛を持っ
たので、かりゅうどたちから
そうよばれていました。
長岡 五 四 吉田 余子

一ツ橋 氏原 一乃
長岡 二宮 嘉奈子

越知 大原 瑠心
城東 持田 和花

残雪というの、は、一羽の
に付けられた名前です。左
右のつばさに、一か所ずつ
真、白なまじり毛を持っ
たので、かりゅうどたちから
そうよばれていました。
越知 五 三 大原 瑠心

残雪というの、は、一羽の
に付けられた名前です。左
右のつばさに、一か所ずつ
真、白なまじり毛を持っ
たので、かりゅうどたちから
そうよばれていました。
城東 五 三 持田 和花

お父さんは、ブラッ
ホームのはし、ぼの、ご
みすて場のような所に、
わすれられたようにさい
ていたコスモスの花を見
つけたのです。
秦 四 六 玉城 遥音

お父さんは、ブラッ
ホームのはし、ぼの、ご
みすて場のような所に、
わすれられたようにさい
ていたコスモスの花を見
つけたのです。
一ツ橋 四 五 田辺 蒼月

秦 玉城 遥音
一ツ橋 田辺 蒼月

長岡 北村さくら子
秦 川上 詩乃

お父さんは、ブラッ
ホームのはし、ぼの、ご
みすて場のような所に、
わすれられたようにさい
ていたコスモスの花を見
つけたのです。
長岡 四 四 北村 さくら子

お父さんは、ブラッ
ホームのはし、ぼの、ご
みすて場のような所に、
わすれられたようにさい
ていたコスモスの花を見
つけたのです。
秦 四 三 川上 詩乃

お父さんは、ブラッ
ホームのはし、ぼの、ご
みすて場のような所に、
わすれられたようにさい
ていたコスモスの花を見
つけたのです。
別府 小 四 七 後藤 樹

鳴りごまは、回ってい
るとき、音を、楽しむこま
です。こまの、どうは、大
きく、中が、くどうになっ
て、どうの、よこには、細
長い、あなが、空いていま
す。
小高坂 三 五 川西 康介

別府 後藤 樹
小高坂 川西 康介

すさき 谷脇 愛来
浦ノ内 宮地 舜翔

鳴りごまは、回っているときの音を楽しむこまです。こまのどうは大きく、中がくうどうになつて、どうのよこには、細長いあなが空いています。すさき三・四ノ内 谷脇 愛来

鳴りごまは、回っているときの音を楽しむこまです。こまのどうは大きく、中がくうどうになつて、どうのよこには、細長いあなが空いています。浦ノ内三・三ノ内 宮地 舜翔

鳴りごまは、回っているときの音を楽しむこまです。こまのどうは大きく、中がくうどうになつて、どうのよこには、細長いあなが空いています。須南三・二ノ内 田中 碧空

鳴りごまは、回っているときの音を楽しむこまです。こまのどうは大きく、中がくうどうになつて、どうのよこには、細長いあなが空いています。須南三・初 田中 碧空

須南 田中 碧空
日下 井川 こはく

浦ノ内 正木 芳尚
すさき 田村 さ雪

にじ色のゼリーのようなくらげ。水中ブルドーザーみたいないせえび。見たことがない魚たち。浦ノ内二・一〇ノ内 正木 芳尚

にじ色のゼリーのようなくらげ。水中ブルドーザーみたいないせえび。見たことがない魚たち。すさき二・二〇ノ内 田村 さ雪

にじ色のゼリーのようなくらげ。水中ブルドーザーみたいないせえび。見たことがない魚たち。うらノ内二・一〇ノ内 池田 理人

にじ色のゼリーのようなくらげ。水中ブルドーザーみたいないせえび。見たことがない魚たち。うらノ内二・一〇ノ内 池田 理人

うらノ内 池田 理人
一ツばし うめばらにこ

夜須 白石 いちか
すさき 金どう すず

にじ色のゼリーのようなくらげ。水中ブルドーザーみたいないせえび。見たことがない魚たち。夜須三・一〇ノ内 白石 いちか

あるまじろは、からだをまるめて、みをまもりす。すさき一・一〇ノ内 金どう すず

あるまじろは、からだをまるめて、みをまもりす。すな一・一〇ノ内 金どう すず

あるまじろは、からだをまるめて、みをまもりす。すな一・一〇ノ内 金どう すず

すな 金どう すず
かみぶん よしむらはるか

あそう たかはしいぶき
うらノうち やまおかみずき

あるまじろは、からだをまるめて、みをまもりす。あそう一・一〇ノ内 たかはしいぶき

あるまじろは、からだをまるめて、みをまもりす。うらノうち一・一〇ノ内 やまおかみずき

あるまじろは、からだをまるめて、みをまもりす。あそう一・一〇ノ内 たかはしいぶき

あるまじろは、からだをまるめて、みをまもりす。うらノうち一・一〇ノ内 やまおかみずき

あそう まつさかのぞみ
うらノうち よしおかまひろ

○印規定・随意共通昇級

条幅

審查 廣末 幽念

(※印写真版)

★
推薦

※江
※市
※田
※門

★天位

※大原桂園
※河村容舟
※岩河里華
※浜崎洋堂
※弘田賀峰
岡林邦心
西山極山
小笠原広人
田村眉州
大石千旆
氏原美臯
伊吹悠道
高橋桜若

★地位

※深瀬緑堂
※中平美峰
※杉本美邦

梶本祐三 山脇佳月 大平圭子 岡田雄山 丸田宏子 亀井司郎

藤原朱鳳
武政幽雅
横田仁実

大崎紫陽
岡林翠
山本恵歩
岩崎竹山

岩村 祥

★
人位

※佐竹江月
※中城康華
大八木洋女

規定

審査
梅川
桂龍

★
師範

南國	山筆	佐川	須崎	須崎	久礼	旭筆	山越	越知	須南	久礼	旭筆	旭筆
西山極	水嶋紅	浜崎堂	深野峰	深瀨綠	江西澄	岡本皓	河村容	岡林邦	弘田賀	野中惠	大八平	岩里華

★準師範

久礼 久礼 久礼 多ノ郷 窪川 久加 上礼 大野見 越知 香北 須南 旭筆 須崎 越知 旭筆 高知 吾桑 旭筆 安芸 山田 久礼 吾桑 仁淀川 山田 越知 久礼 山田 吾桑
畝原和華 中村里園 平井桂章 芝田春琴 山西春草 佐江月 山中紅風 西村芳杏 横山桂花 萩原美泉 氏原景泉 天野喜泉 岡田雄山 山本恵歩 高橋真鳥 桑原智子 松浦明子 別役美佐 大石千施 岩崎山竹 窪田碧泉 窪田清國 丸田宏子 大崎繁陽 吉田深美 池田芳春 門田惠子 田中惠風 西内仁子 大崎花梢

審査 前田 秀華

★六段

久礼	窪川	窪川	窪川	窪川	野市	須南	室戸	南国	★五段	旭筆	旭筆	仁淀川	窪川	東洋	佐川	香北	佐川	仁淀川	旭筆	明石	須南	久礼	越知	高知	須崎
坂本 綯子	吉永 光裂	笠原 多喜	中城 華雄	武政 幽雅	山脇 佳子	田村 星子	浪上 理奈	龜井 司郎	池川 千早	橋本 祝子	鎌倉 春華	伊吹 秋枝	廣田 秋樹	伊吹 孝北	横山 友香	岡村 妙雪	井口 大直	藤原 貞道	大野 美智	岩村 祥	田村 朋花	岩谷 紅花	中沢 里花	利谷 喜子	岡村 玉水

越知岡林翠

★
四段

窪川	須崎	南國	旭筆	大野見	窪川	旭筆	旭筆	越知	審査		中公	山田	香北	旭筆	窪川	仁淀川	南國	波介		窪川	高橋由美
	小笠原仲人	濱田順子	大井 淳	高橋翠園	横山星舞	山崎隆志	津野惠景	久保地初吏	西山 極山		村田啓子	中澤英子	杉本美邦	坪内倫孟		横田仁実	山本心春	林 隆幸	森澤美佑書		
★初段										★三段					★二段						

仁淀川大原紀美子

★
一級

	須南	森光朋子
高知	岡田由紀	
多ノ郷	市川美香	
久礼	濱田美恵子	
高知	川崎志津	
南国	田内史惠	
南国	林真英	
久礼	山中実樹	

★三級

仁淀川○後藤和善	
仁淀川○山の中あや	

★四級

仁淀川○城尾彩	
---------	--

東洋	藤原勝子
阿波	前田伸枝
須崎	中田花鶴
須崎	和田恵美
東洋	吉村久美子
東洋	松島利恵
中公	山崎幸三
仁淀川	山本房
仁淀川	掛水勝恵
仁淀川	品原律子
仁淀川	中内泰子
朝倉	根口千裕
仁淀川	品原里皇

審査	大八木洋女
----	-------

★一級

出品票の名前は楷書ではっきり書いて下さい。

★出品票は黒枠をきちんと切って下さい。
★臨書は出典名を記入のこと。

須崎 須崎	須崎 ○松坂美枝 ○橋本和世	★六級
新規	八級編入 馬路 金子知加 馬路 井上由利子 馬路 清岡奈津子 馬路 川内みさき 馬路 久保可奈	★新規
審査	福原 曉雲	★師範
隨意		
水田紅子 江西澄峯 弘田實峰 市原處岬 野中恵花 大原桂園 矢野峰臣 岩河里華 西山極山 深瀬緑堂 奥堂皓月 岡山邦心 大八木洋女 中平美峰 河村容舟	岩崎竹山 氏原美泉 桑原智子 別役宏子 天野喜泉 西森惠歩 西内仁子 吉浦明子 高橋朱鳥 山中忠風 田中紅風 山中紫陽 田村和子 佐竹江月 池田芳春 芝田春琴 横山桂華 門田恵子 西村芳香 中村里園 平井桂草 高橋桜芳 岡田雄山 山西春草	★六級
準師範		★準師範
伊吹悠道 橋本祝子 藤原本鳳 岩谷紅花 大平圭子 岩村祥 鎌倉春葉 利谷喜子 横山友香 大野美賀 岡村妙慧	坪内倫子 杉本美那 村上啓子 井上知勢子 森澤美佑貴 山本心春 横田仁実 林隆光	★二段
初段		★初段
龜井司郎 坂本絢子 浪上理奈 笠原多嘉 浜恵子 岡林翠	吉村久美子 松島利恵 山崎幸三 高橋由美 前田仲枝 中田花穂 西尾明美 藤原勝子 和田恵美 掛水勝恵 中内泰子	★一級
二級		★二級
川崎志津 市川真香 林真裕 森光朋子 濱田美恵子	岡林 邦心 	★特待生
一年		★一年
鍋島祐里花 須崎 鍋島祐里花	南 竹内雄星	★九級
小学部		★九級
毛筆六年		★九級
長岡 安井風葵 長岡 猪野雛子 岡豊 岡上真里	上分 西森美陽 ★七級	★八級
谷口彩心 須崎 谷口彩心 ★五級	上分 植村晴陽 ★四級	★八級
西田紗菜 藤原乙羽 永尾庵	上分 窪田愛生 ★六級	★九級
小松わと ★三段	愛宕○森田明日香	★九級
飯田桃萌 片岡綺女 藤原杏実	越知 一ツ橋 別府 越知	★九級
米澤知那 鈴木悠斗 ★八級	長岡 森田千春 南 奥崎誠真	★九級

★初段 別府 庄武聖愛 一ツ橋 志磨村彩 一ツ橋 梅原勇人 ★一級 多ノ郷 森光陽菜 附屬 三本晴士 ★七段 浦ノ内 宮地輝翔 新莊 鍋島 綜 ★六段 長岡 押岡風佳 ★五段 一ツ橋 氏原一乃 長岡 二宮嘉奈子 長岡 高芝仁貴 多ノ郷 森岡快晴 上分 朝比奈来夢 ★四段 須南 宮本里依羽 須崎 毛利秀門 ★三段 初月 川瀨結衣 一ツ橋 戸梶愛加 一ツ橋 片岡あい		★初段 秦 長岡北村さくら子 岡豊 玉城遥音 岡豊 西宮咲希 島村倅空 ★二段 秦 川上詩乃 一ツ橋 玉置はる 附屬 江頭咲良 長岡 竹内陽南子 須崎 田村拓海 上分 田なべり音 上分やなぎ本きい ★初段 吾桑 梅原蒼葉 岡豊 田所萌羽 秦 阿漕結花 ★一級 岡豊 中司こころ ★七級 別府 ○後藤 樹 ★八級 江ノ口 ○下村亜李衣		★二級 長岡 ○西内明利 吾桑 ○吉門蒼馬 ★四級 長岡 ○溝瀨蒼功 ★七級 長岡 ○小笠原 湊 一ツ橋 ○田北琳太朗 吾桑 ○宮崎穂花 一ツ橋 ○宮田菜瑠 長岡 ○大谷優月 ★九級 奈路 ○植野 新 もうひつ二年 審査 奥堂 皓月 ★三段 須南 西村太希 須崎 毛利香花 ★二段 須崎 田村さゆき 浦ノ内 正木芳尚 須崎 領木あみ		★初段 上分 うめばらみらい 池川 藤崎菜央 ★一級 多ノ郷 太田朋希 岡豊 島村心遙 長岡 竹内伽菜心 長岡 押岡息吹 長岡 猪野光騎 ★三級 長岡 宮脇治太 ★四級 多ノ郷 ○森光りいな ★八級 秦 ○清家逢生 もうひつ一年 審査 佐竹 江月 ★初段 須崎 金堂すず		★一級 須南 宮本はるま 上分 よしむらはるか ★三級 多ノ郷 ○森光れんたろう ★六級 多ノ郷はしだかほ ★八級 朝倉○根口このは 上分 ○はしだいちか ★九級 吾桑○高橋いぶき 須南○田中にこ しんじょう ○なかじまあやと 上分 ○たかはしほなみ ★十級 須崎○谷口きずな	
毛筆五年 審査 深瀬 緑堂 ★八段		毛筆四年 審査 大原 桂園 ★六段 多ノ郷 大城リサ ★五段 一ツ橋 安田悠成 上分 松田菜乃 上分 梅原百叶 多ノ郷 橋田天湧 上分 小松のぞみ 須崎 谷口桜心 ★四段 長岡 宮脇改太 池川 鶴井香月 ★三段 一ツ橋 田辺蒼月 池川 藤崎杜真		毛筆三年 審査 河村 容舟 ★五段 長岡 森田実咲 小高坂 川西康介 ★四段 夜須 西村朝陽 ★三段 佐古 田村けんご ★二段 吾桑 高橋そら 馬路 松坂美緒音 須南 小松太緒 長岡 田中碧空 須崎 永尾まとい 須崎 谷脇愛来 須崎 金堂莉李 須崎 津野聖佳 ★初段 浦ノ内 宮地舜翔 ★一級 夜須 清藤 蘭		毛筆二年 審査 奥堂 皓月 ★三段 須南 西村太希 須崎 毛利香花 ★二段 須崎 田村さゆき 浦ノ内 正木芳尚 須崎 領木あみ		毛筆一年 審査 佐竹 江月 ★初段 須崎 金堂すず	

(出品票) 低学年の生徒名も5字迄に。出来るだけ漢字を使用して下さい。

のり代	氏名	段	級	のり代	月意	臨出典名
5年9月定規				5年9月定規		
★新規 九級編入 奈路 植野あおい もうひつ ようち・ほいく ★五級 吾桑○松坂のぞみ ★十級 ふたば○後藤和葉 ★九級 久礼 中平千友 ★七級 須崎久保田湧乃介						
★八級 上分 西森美陽 浦ノ内 岡本大陸 長岡 安井風葵 長岡 猪野雛子 ★七級 越知 片岡絢女 ★九級 長岡 森田千春 浦ノ内 美島乙世花 浦ノ内 森田沙和良 浦ノ内 宮本心太 須崎 谷口彩心 一ツ橋 日浦靖仁 浦ノ内 池田毬乃 須崎久保田湧乃介 ★八級 浦ノ内 寺田 滯 岡豊 西田紗菜 長岡 永尾 庵 ★七級 一ツ橋 氏原一乃 長岡 押岡風佳 浦ノ内 矢野蒼真 ★六級 一ツ橋 飯田桃萌 上ノ加江 後藤まなか 浦ノ内 田中日向						
★初段 池川 藤原乙羽 ★一級 別府 藤原杏実 ★九級 新莊 鍋島 綜 多ノ郷 森光陽菜 ★八級 浦ノ内 宮地輝翔 初月 川淵結衣 ★七級 一ツ橋 氏原一乃 長岡 押岡風佳 浦ノ内 矢野蒼真 ★六級 一ツ橋 飯田桃萌 上ノ加江 後藤まなか 浦ノ内 田中日向						
★初段 長岡 高芝仁貴 須南 宮本里依羽 須沢 駒崎愛恵 一ツ橋 片岡あい 浦ノ内 藤田 楓 上分 朝比奈来夢 須崎 竹村奏佑 ★四段 長岡 二宮嘉奈子 南 西山あい ★三段 越知 大原瑠心 一ツ橋 志磨村彩 一ツ橋 山下斗愛 一ツ橋 梅原勇人 馬路 浅野由梨 浦ノ内 森田大翔 ★二段 一ツ橋 吉田心花 土佐山 澤田 理 上ノ加江 政岡明里 ★初段 城東 持田和花 須崎 川西桜空 大谷北 山崎流依 別府 庄武聖愛 須崎 川西蒼空						

筆・硯・墨・古法帖・墨液・画仙紙
書道用具萬般乞来店

(株) 迅 音 齋

高知市南宝永町14-18

TEL (代) (882) 1394番

夜間・TEL (882) 1392番

(出品票)

のり代
5年
9月
毛筆

保	学
年	年

のり代
5年
9月
硬筆

中国文房四宝
中国産書道用品
久保田号銘筆

有限
会社

衛 策 四

〒780-0818 高知市宝永町3-3
T E L (088) 8 8 2 - 1 4 5 4
F A X (088) 8 8 4 - 7 4 1 3

へお知らせ

第74回 こども県展について

先日高新で募集要項が発表されました。

毛筆の部

課題 中三年 諸行無常

中二年 開花予想

中一年 天変地異

小六年 有言実行

小五年 菜の花畑

小四年 七つの海

小三年 年月

小二年 ちず

小一年 てつ

(特別支援学校、特別支援学級の児童、生徒は課題自由)

※ 本誌十月号の毛筆課題は、

右のこども県展課題と同様とします。

(手本は八月審査会提出)

〈お詫び〉

先月(8月号)27頁のこども県展の毛筆課題が間違っていました。訂正いたします。

【認定証について】

昇段、昇級された方で認定証が入用の方は、左記によりお申し込み下さい。

記

★師 範 三千円

★準師範以下一般 二千円

★学 生 一千円

(注意 申込時左記事項を必ずお知らせ下さい。)

① 昇段の年月日

② 学生は学校名と学年

③ 一般は市町村名

(申込先) ご希望の先生に要項を明記した文書で

直接お申し込み下さい。

〒七八一七四二二

安芸郡東洋町河内三〇四

龍跳書道会 福原暁雲

〒七八一三〇一

高岡郡越知町越知甲二二一七一六

龍跳書道会 梅川桂龍

お知らせ

※県展作品下見会

8月27日(日) 審査会終了後(12時半)
下見会を行います。
(参加料500円)



昇段試験に関する件

- 受験料は期日(八月三十一日)迄に 口座に振込んで下さい。
- 受験作品及び受験料の審査会場での受付けは、審査日(九月四日)当日の八時三十分〜九時までです。
- 時間、厳守して下さい。
- 昇段試験「申し込み内訳表」は正しく書いて 作品に添付して下さい。

秋季昇段級試験作品募集

▽師範の部 (受験資格・本会準師範位に限る)

。課題

對酒不覺暝 落花盈我衣

醉起步溪月 鳥還人亦稀

酒に對して暝を覺えず／落花 我が衣に盈つ／醉起して溪月に歩すれば

／鳥還つて人も亦稀なり

。右の詩句を小画仙半折に隸、楷、行草体の三枚と一ページ米芾蜀素帖より、十二文字以上を節臨して計四点出品のこと。
。作品は無落款とし、作品毎に裏面左下にエンピツで姓名を明記すること。
。当選者は本会師範に推挙する。

▽第一部 (受験資格 一般部段位、級位の者)

。課題

秋草獨尋人去後 寒林空見日斜時

秋草 ひとり尋ぬ 人去るの後／寒林 空しく見る 日斜めなる時

。右の詩句を小画仙半折に楷、行草体の二枚と一ページ米芾蜀素帖より、十二文字以上を節臨して計三点出品のこと。

。作品は無落款とし、作品毎に裏面左下にエンピツで現段級と姓名を明記すること。

。当選者は準師範以下相当段位に認定編入する。

▽第二部 (受験資格 一般部級位の者)

。課題

江靜潮初落

江 靜かに 潮初めて落つ

。上記を楷、行、草の三体を半紙三枚出品のこと。

。作品を楷、行、草の順に縦に貼つぎすること。

。作品は無落款とし、作品裏面左下にエンピツで現級位と氏名を明記すること。

⑦ 封筒表に「昇試作品在中」と明記すること

。当選者は初段以下相当段級位に認定編入する。

△出品料

師範部・八千円／第一部・六千円／第二部・四千元

(作品と同時に納入してください)

第一、二部参考手本を希望される人は本会役員に直接申込んで下さい。潤筆料は条幅三点につき一万五千元、半紙三点につき五千元。

▽学生・学童の部 (毛筆部)

。課題の文字は龍跳七月号(七月二十日締切)の課題字句とします。

。規格は半紙。二人一点とします。

。書体は自由です。

。作品の裏にエンピツで学年、現段級位、氏名を書くこと。

。作品の表には絶対に書いてはいけません。

。出品料 五百円

▽硬筆作品

。課題の文字は龍跳七月号(七月二十日締切)の課題字句とします。

。それぞれの学年に応じた硬筆用紙に規定の字句、学校名、学年、現段級位、氏名を正しく書いて出品してください。

。出品料 五百円

△作品・出品料の締切

令和五年八月三十一日(木)

※出品料は本会口座に振込んで下さい。

※出品作及び受験料を審査当日、会場に持ち込む場合は、八時三十分～九時迄の受付です。

△審査日時

令和五年九月三日(日)

午前九時から審査準備、十時より審査開始

高知城ホール

△審査場所

〒783-0081

南国市片山四九〇 西山極山 宛
電話 (088) 86518857

春・秋・季 昇段(級)試験申し込み内訳表

申込者氏名 _____

	出 品 料	点 数	金 額	払い込み方法 (いずれかを○で囲む)
師範の部 (春季のみ)	8000円	点	円	現金・為替・振込み
第一 部	6000円	点	円	現金・為替・振込み
第二 部	4000円	点	円	現金・為替・振込み
学生・学童の部	出 品 料	点 数	金 額	払い込み方法 (いずれかを○で囲む)
毛 筆	500円	点	円	現金・為替・振込み
硬 筆	500円	点	円	現金・為替・振込み
合計金額			円	

※ 昇試作品に上記内訳表を必ず添付して下さい。 ※グループで送られる方は合計点数で記入して下さい。
 ※ 師範の部は4体、第1部・第2部は3体を「1点」として下さい。

連絡・問い合わせ・送り先等

・新規入会申込と会費の送金先

・「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎 一三三一

隅田 亘 心

龍跳書道会 龍跳口隣縣庁

01690-3-31925

電話 (〇八八九) 三五〇九七一 番

・月例作品の送り先

〒783-0081 南国市片山四九〇

西山 極 山

電話 (〇八八) 八六五—八八五七 番

・「龍跳誌」の内容について

〒781-7412 安芸郡東洋町河内三〇四

福原 曉 雲

電話 (〇八八七) 二九—二六五〇 番

・編集についての連絡先

〒785-0010 須崎市鍛冶町六一八

江西 澄 翠

電話 (〇八八九) 四二—三〇六七 番

・送本についての連絡先

(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野中 恵 花

電話 (〇八八九) 四七—〇七二一 番

阻むもの

私達は昭和五年竹村子雀先生が創立された龍跳書道会に所属し、高知県の書道文化の普及と向上を頼って活動しています。

しかし、会員がめざした志と違ってその目的を阻む要因が次々と噴出していきます。

その一つが少子高齢化の問題です。(今日は高齢化の問題にしぼります。)卑近な例で申しましよう。

私は昨年九十歳を越えました。今年二月運転免許証を返納しました。「まだ乗れる。」と自信たっぷり私の私も家族の拒否でもろくも崩れ去りました。今はアシスタント付きの自転車に頼っていますが、これがまた大変です。「危ない」「おそい」「不便」結果書道の活動にも響いてきます。

そして、今一つが物価高騰です。

この間、書道用品を扱っている社長から聞いて驚きました。愛用の半折画仙紙が一反で三千円近くも急騰しているのです。私達が使用している紙は主に中国や台湾から輸入されるそうです。その中国産の紙がコロナ禍やロシアのウクライナ侵攻によって値上がりしているというのです。コロナ禍は致し方ないとしてもロシアはいけません。ロシアはコロナ禍によってえいかげん疲弊している世界に燃料高騰という爆弾を投げこんだのです。

「阻むもの」はまだ他にもあります。私達はそれらを克服してそれでも書き続けなければならないのです。

月例競書課題

部 別	締切日	
	九月二十日 締切	十月二十日 締切
一般条幅	任意	任意
半紙規定	餘花猶可醉	好鳥不妨眠
半紙随意	任意	任意
中学三年	暮雲思鄉	諸行無常
二年	開花予想	
一年	天変地異	
小学六年	空清き里	有言実行
五年	秋空高し	菜の花畑
四年	秋の山里	七つの海
三年	生 命	年 月
二年	こ め	ち ず
一年	あ き	て つ
保 育		

月例作品送り先

〒783-0081 南国市片山四九〇

電話 (088) 865-8857

西山極山宛

会 費 の 送 金 に つ い て

会 費 : 半年分 3,000円 / 1 年分 6,000円

1 ヶ月の龍跳誌郵送料

(幸便搬送の方は〒料不要)

11冊以上は次の計算による。(1ヶ月分)

①	1冊～3冊	80円
②	4冊～8冊	150円
③	9冊・10冊	210円

〈例〉 12冊 ①+②=290円×月数

17冊 ①+③=360円× "

30冊 ③×3=630円× "

◎会費と龍跳誌〒料は原則として半年分または1年前納のこと。

◎送金は次の何れかへ

・〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心
 ・振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会
 (お問い合わせ) ☎0889-35-0971

〇月号(〇冊)より〇月号まで〇ヶ月分
 誌代 〇円 / 〒料 〇円

と記入のこと。

編集室

福原 曉 雲

野 島 桂 山

江 西 澄 翠

中 平 美 峰

発行人

福原 曉 雲 (本部)

安芸郡東洋町河内三〇四

電話 (0887) 291-2650

発行所

龍跳書道会

電話 (0887) 291-2650

印刷所

(有)笹岡印刷所

須崎市東古市町二一六

電話 (088) 421-0244